

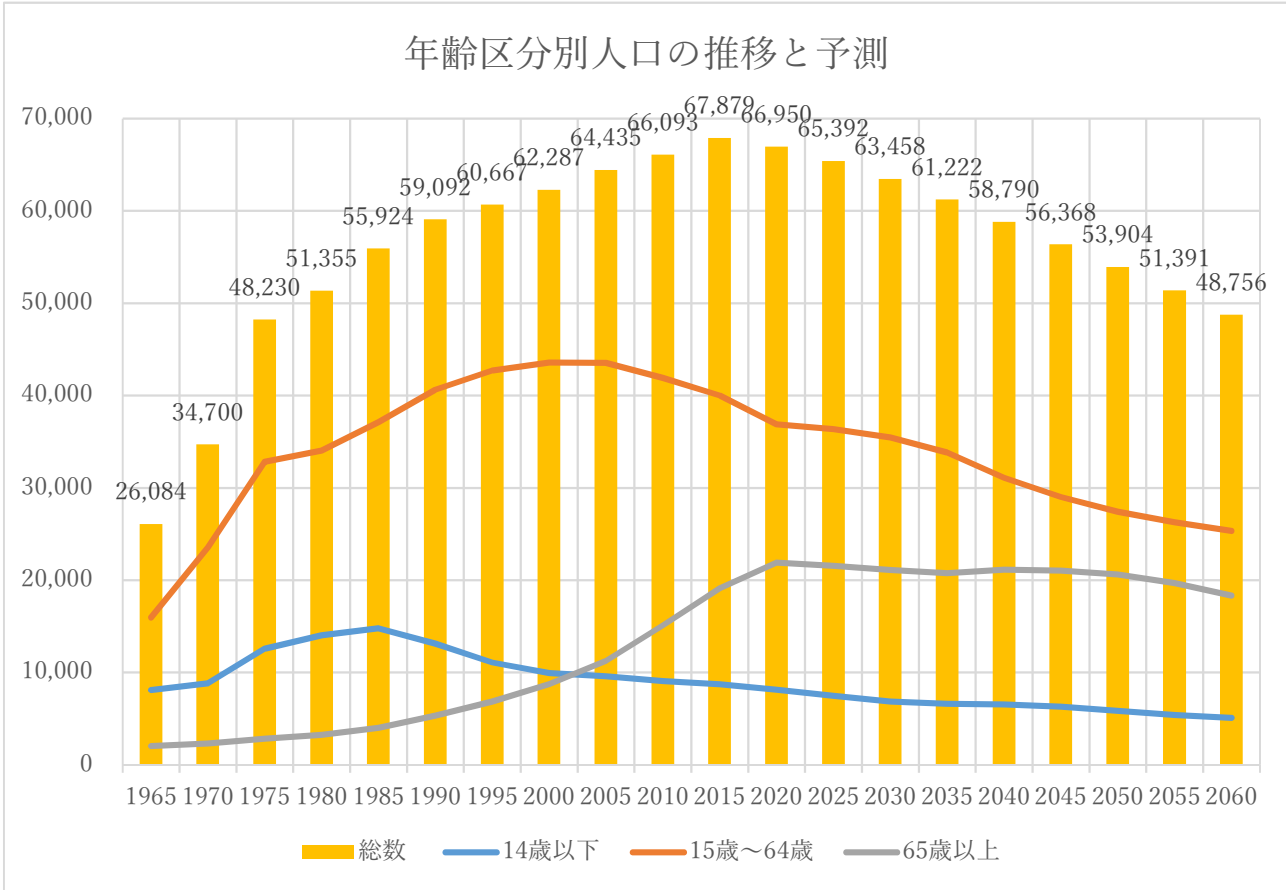
鹿嶋市学校規模適正化基準策定委員会（第1回）資料

1. 鹿嶋市の人口の推移と学校の状況

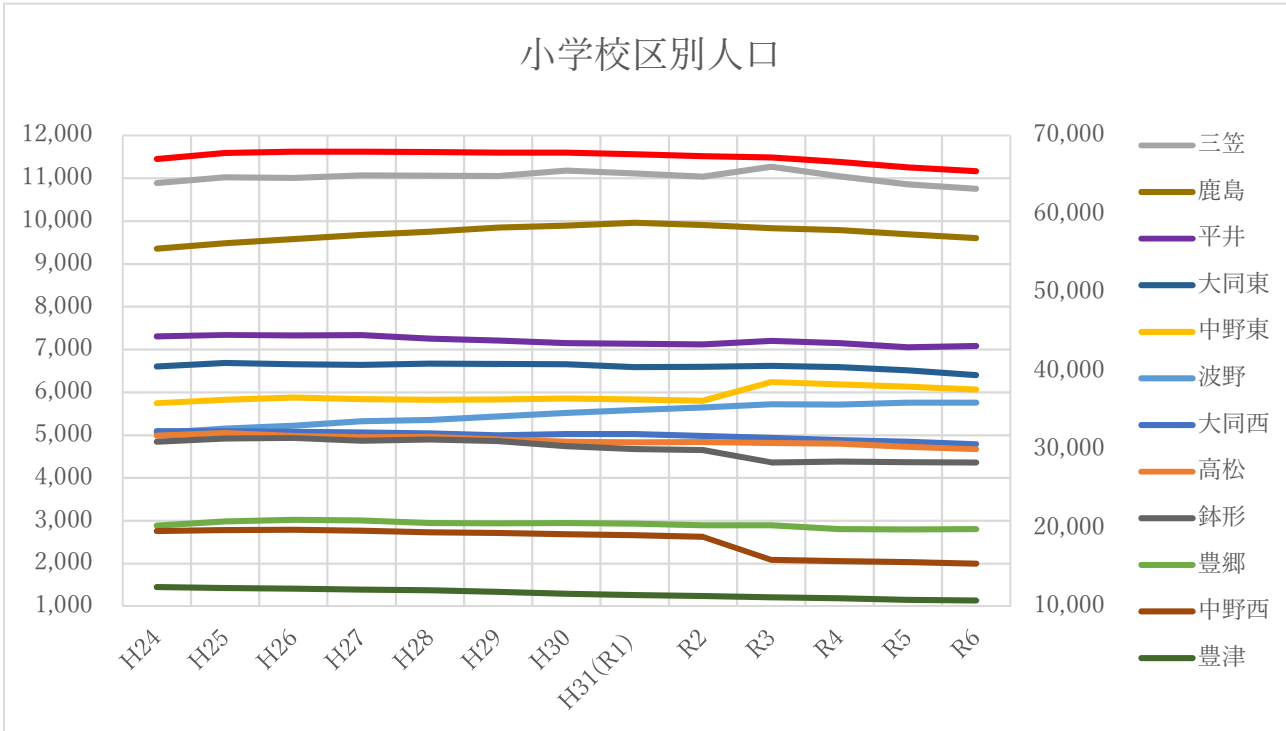
(1) 人口の推移と人口ビジョン

鹿嶋市(旧鹿島町)の人口は、1960年ごろから進められた鹿島開発により1965年以降に人口は急激に増加し、バブル崩壊後の1990年以降も緩やかに人口増加を続けてきましたが、2015年(平成27年 国勢調査 67,879人)をピークに人口減少へと転じている。

鹿嶋市人口ビジョン(2022年改訂版)では2060年(令和42年)には総人口が48,756人(19,123人減)まで減少することを見込んでいる。年少人口(14歳以下)は2025年以降11%程度の割合で推移することを見込むが、2060年には2015年度比8,719人の58.4%となる5,095人(3,624人減少)となることを見込んでおり、鹿嶋市の人口がピークとなった2015年、年少人口がピークとなった1985年(昭和60年)と、現在の状況と将来予測を正確に把握し、情勢に合った施策を展開することが求められる。



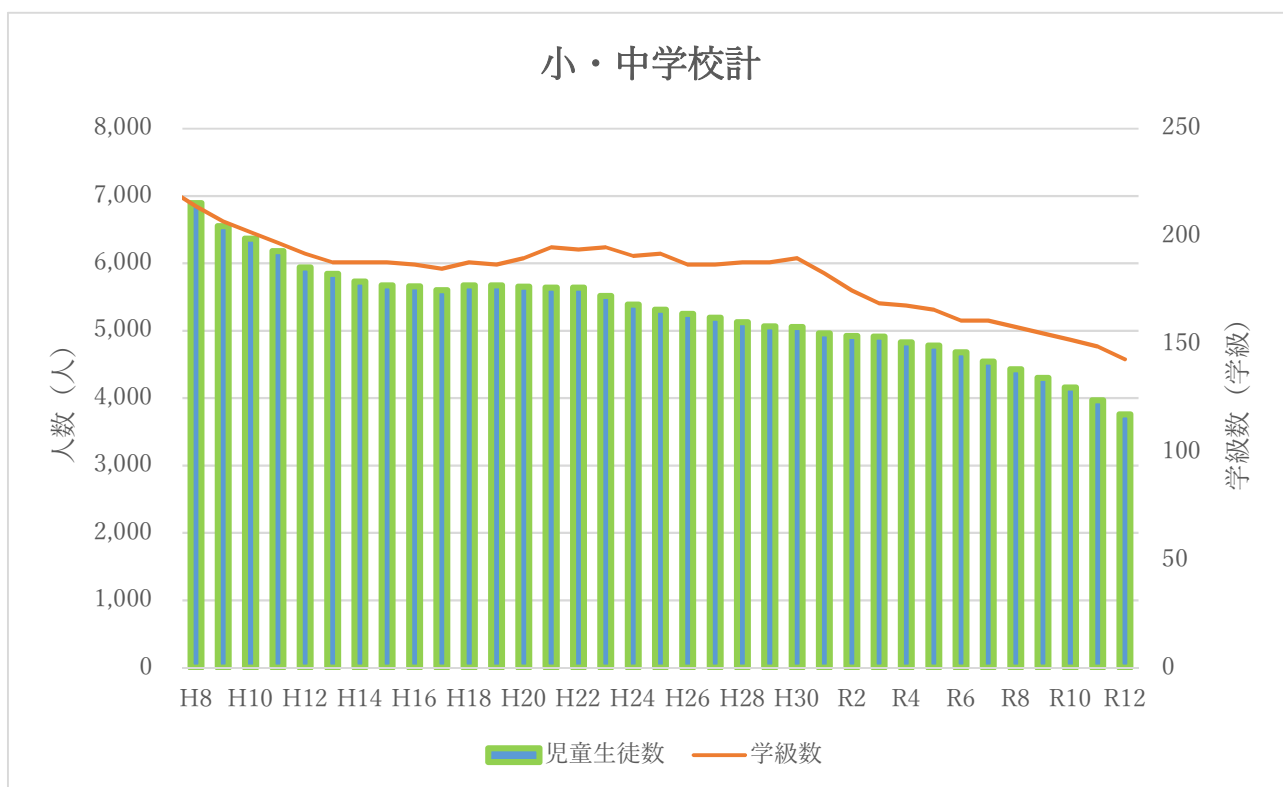
出典：総務省「国勢調査」及び鹿嶋市人口ビジョン（2022年度改定版）



【資料②】年齢区分別人口の推移と予測及び小学校区別人口

国勢調査から、小・中学校の児童・生徒数についてみますと、鹿島開発以降の人口増加同様に、1985年に、合併前の旧鹿島町・旧大野村合わせて9,200人を超える児童生徒数となり、この時期がピークでした。1996年(平成8年)以降の鹿嶋市における児童生徒数は、同年度の6,897人が最多となります。その後10年経過した2006年(平成18年)には、1996年比、約18% 1,221人減の5,676人、20年後の2016年(平成28年)には、約26% 1,769人減の5,128人、2024年(令和6年)は約32% 2,216人減の4,681人となっています。

今後も減少傾向は続くものと考えられ、2027年(令和9年)には約4,300人、2030年(令和12年)には、約3,700人まで減少していくものと見込んでおります。



出典：学校基本調査(各年5月1日)及び、住民基本台帳の出生者数からの見込み値(以下同様)

【資料③ 児童生徒数、学級数の推移】

(2) 小学校の状況

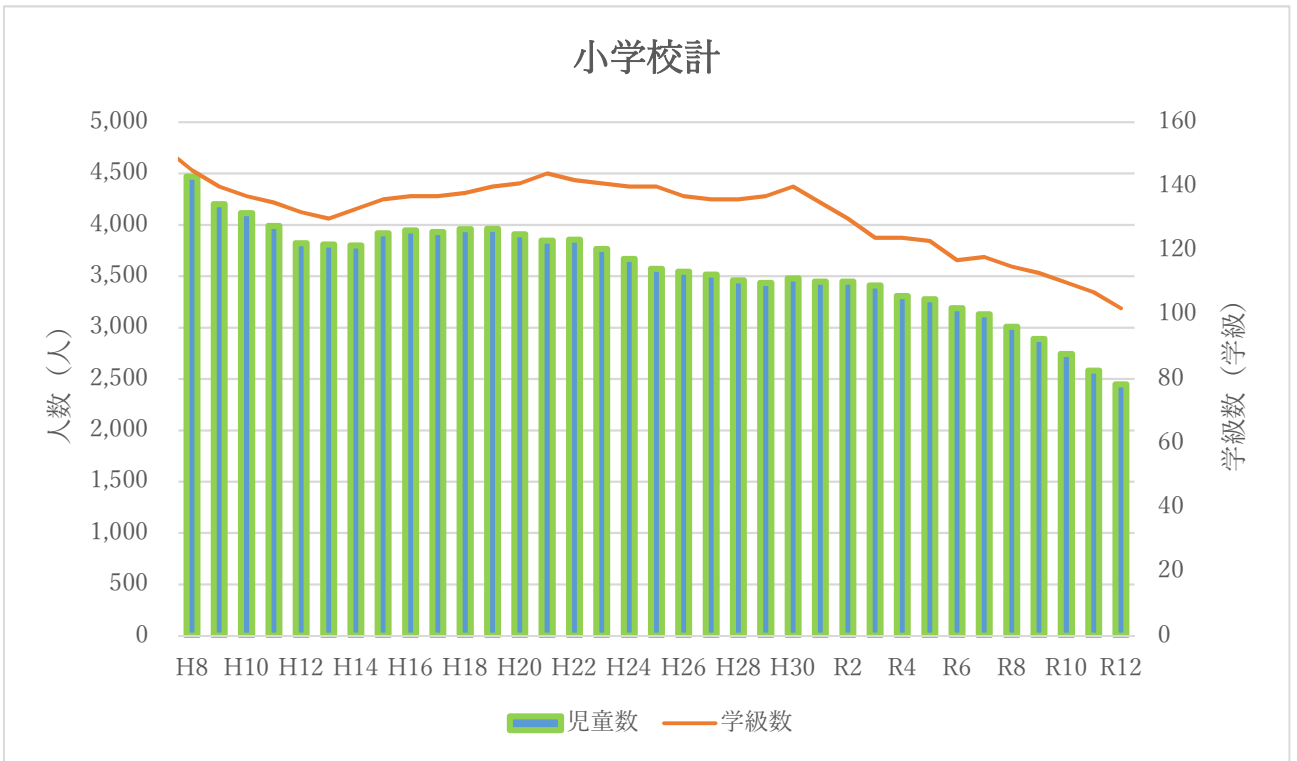
鹿嶋市内には12の小学校があり、1995年（平成7年）の旧鹿嶋町と旧大野村合併時にあった旧鹿嶋町の8小学校と旧大野村の4小学校がそのままの形態で現在も存続しております。

旧鹿嶋町時代から存続する8小学校は、尋常小学校等を起源とする5小学校（波野小学校、豊郷小学校、豊津小学校、鹿島小学校、高松小学校）と鹿嶋開発による人口増加により、高松小学校の分校から独立した1小学校（平井小学校）及び、新設した2小学校（三笠小学校、鉢形小学校）に分類される。

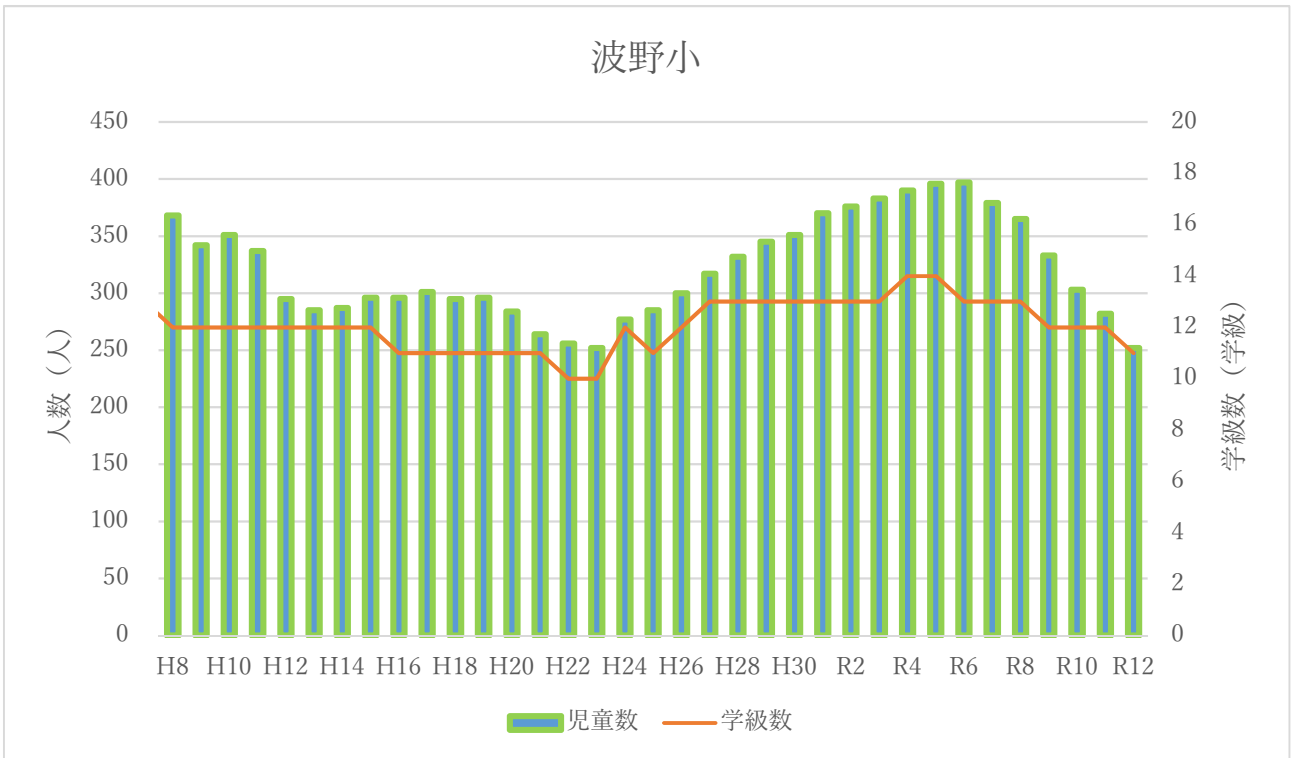
また、旧大野村から存続する4小学校は、いずれも尋常小学校及びその分教場を起源とするもので、100年を超える歴史を持つ学校である。

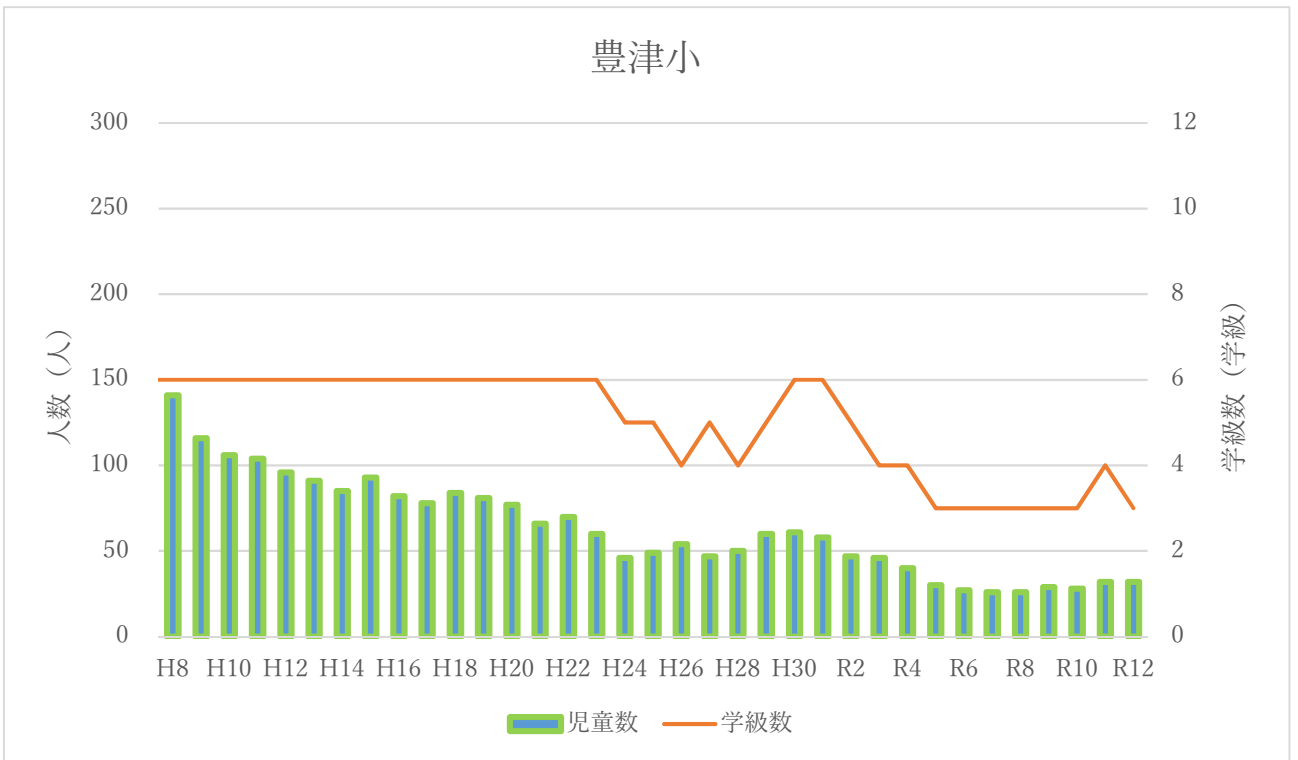
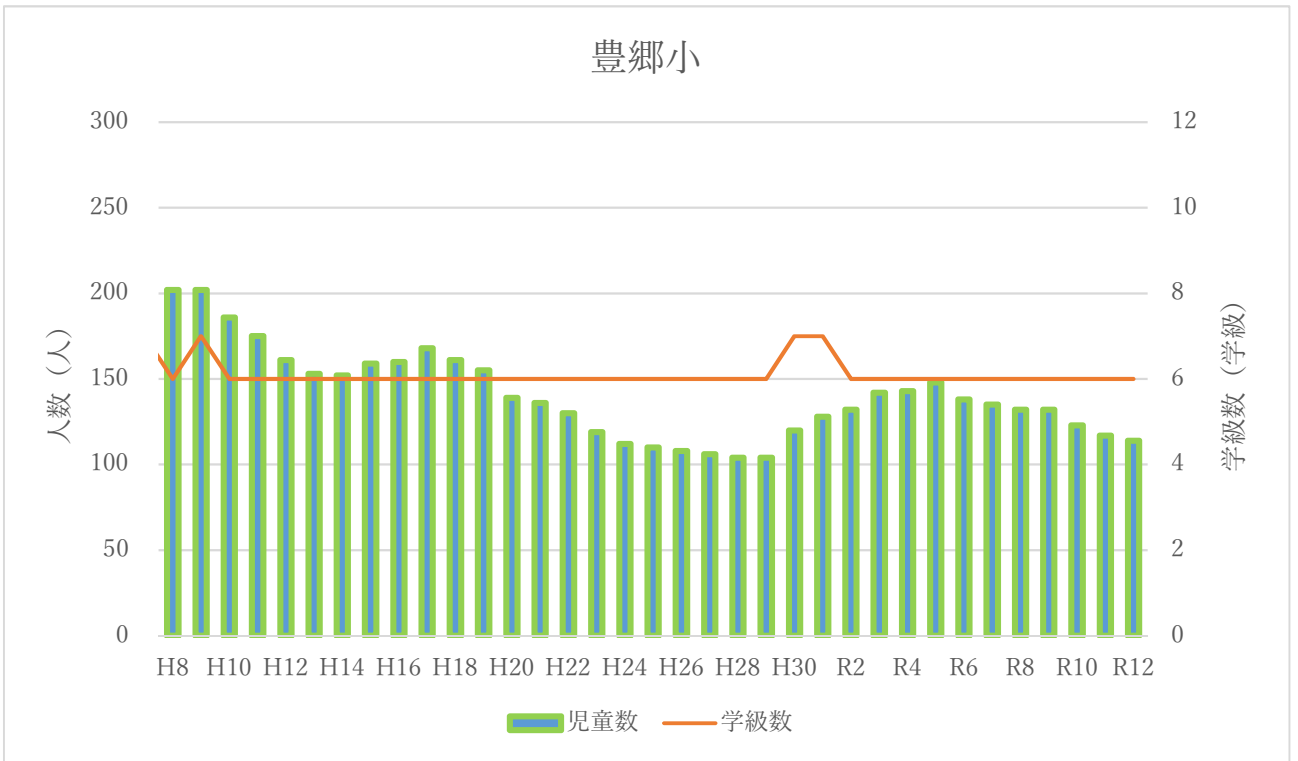
なお、旧鹿嶋町では社会教育と連携した学校教育を推進してきたことで、小学校区に8つの公民館が整備された。1995年の合併以降、旧大野村地区にも小学校区ごとに公民館を整備すると選挙公約に掲げられたこともあったが、行政区ごとに「集落センター」などの施設が整備されていたことから、旧大野村以前の旧大同村と旧中野村に公民館を2館整備するにとどまったことで、現在、鹿嶋市には10の地区公民館が整備されている。

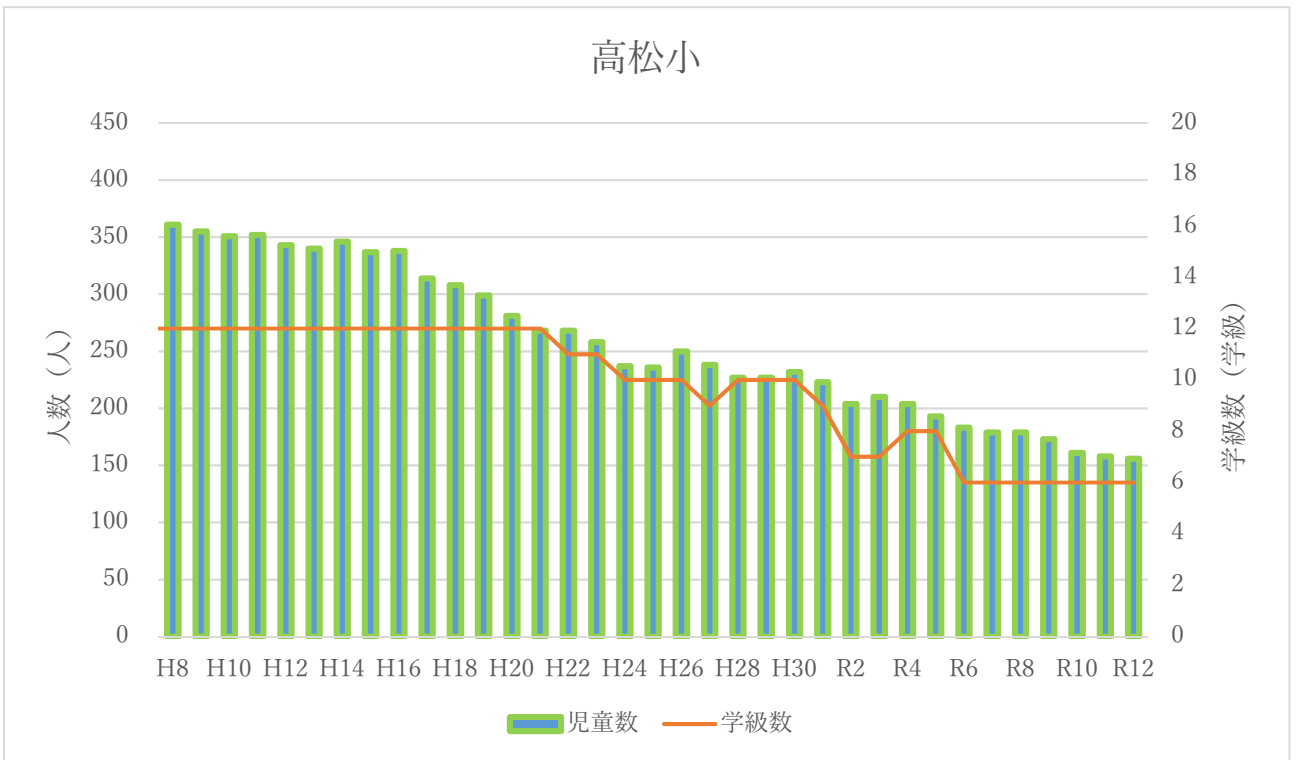
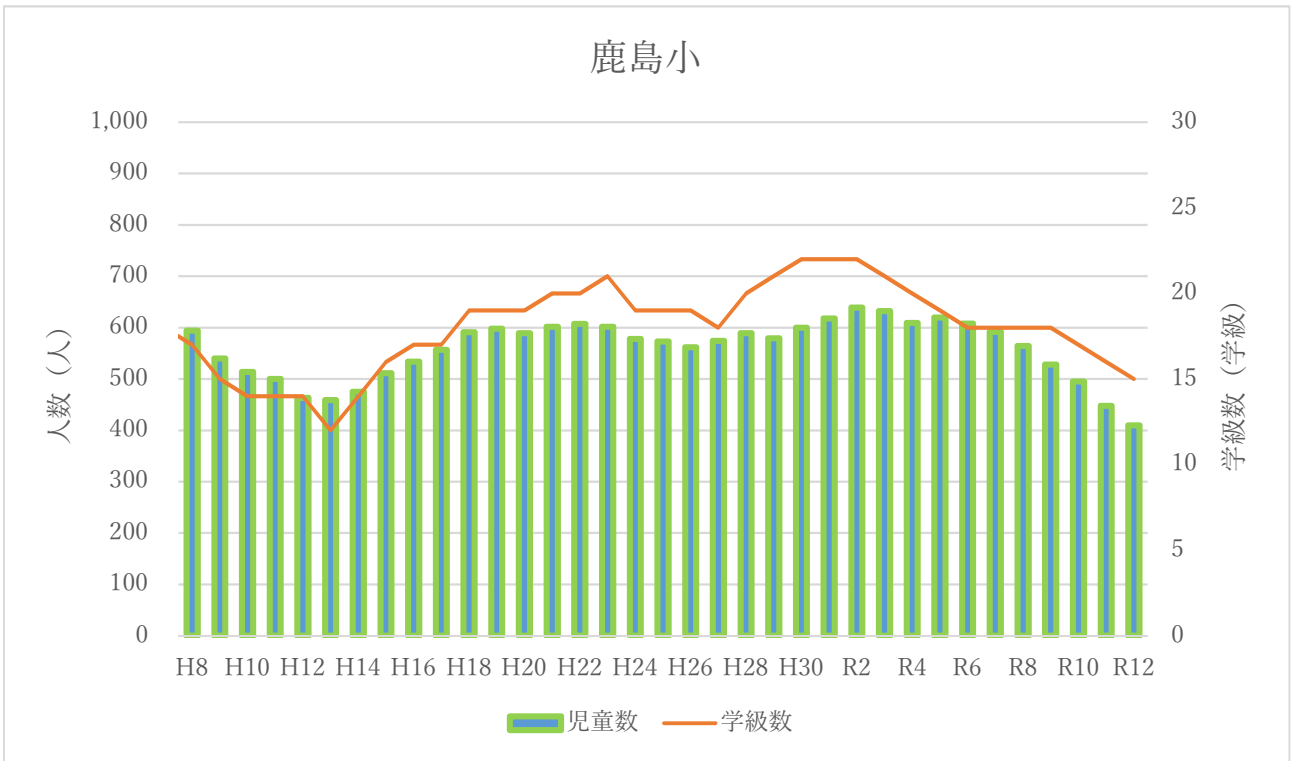
児童数及び学級数は1996年（平成8年）の4,470人145学級をピークに減少を続け、2024年（令和6年）は3,190人（1,280人減）117学級（28学級減）となっている。今後もさらなる減少が続き、2030年（令和12年）には2,446人102学級となることを見込んでいる。この時点での12校の学校規模の内訳は、過小規模校（5学級以下）が2校、小規模校（6学級から11学級）が8校となり、かつて1,000人を超える児童数であった三笠小学校の児童数は437人、学級数も最大27クラス（2015年）から15学級へとなり、適正規模校（12学級以上）が2校となることを見込まれている。

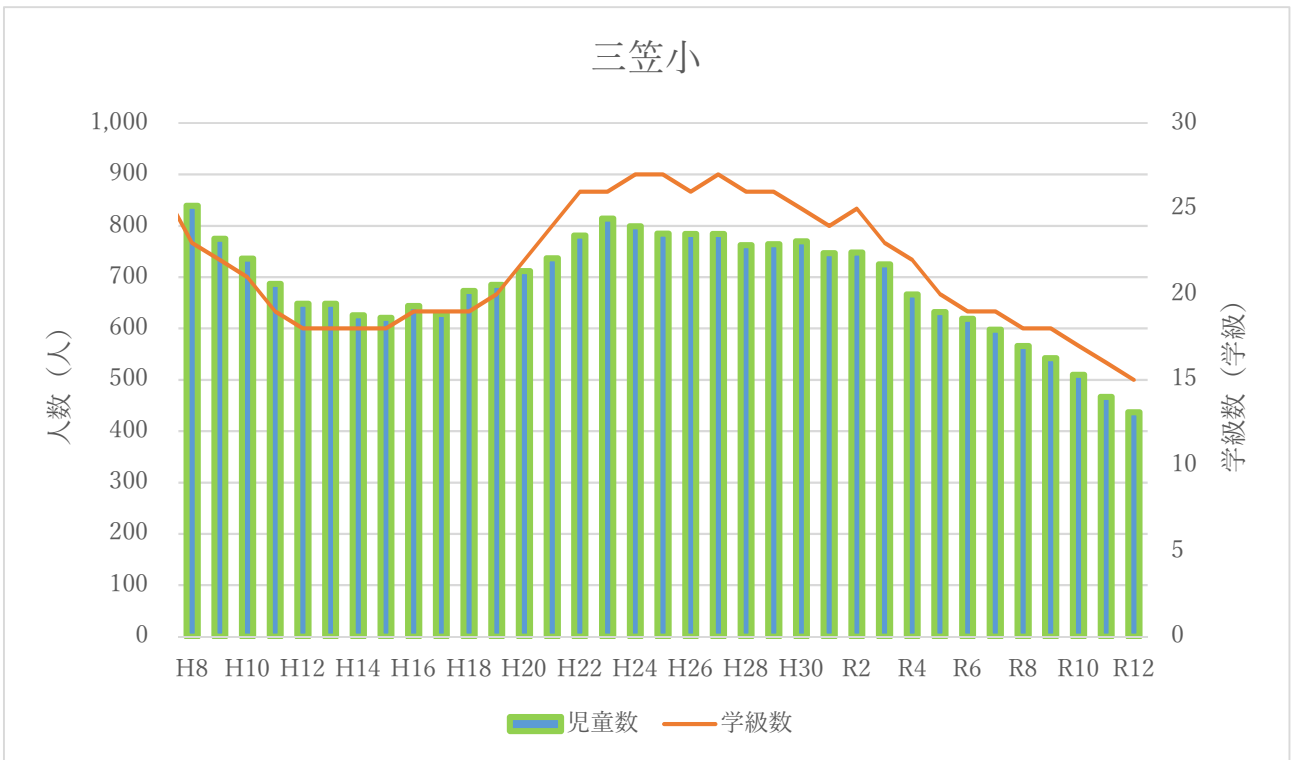
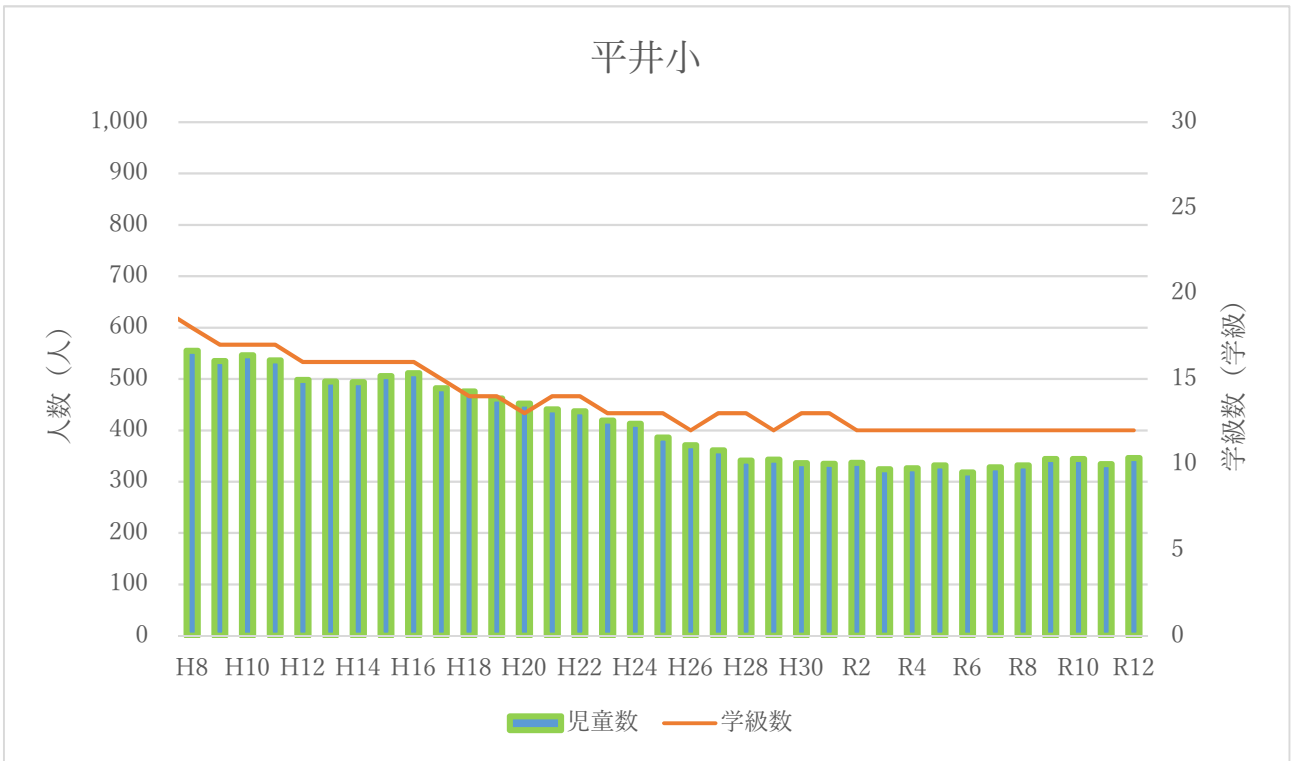


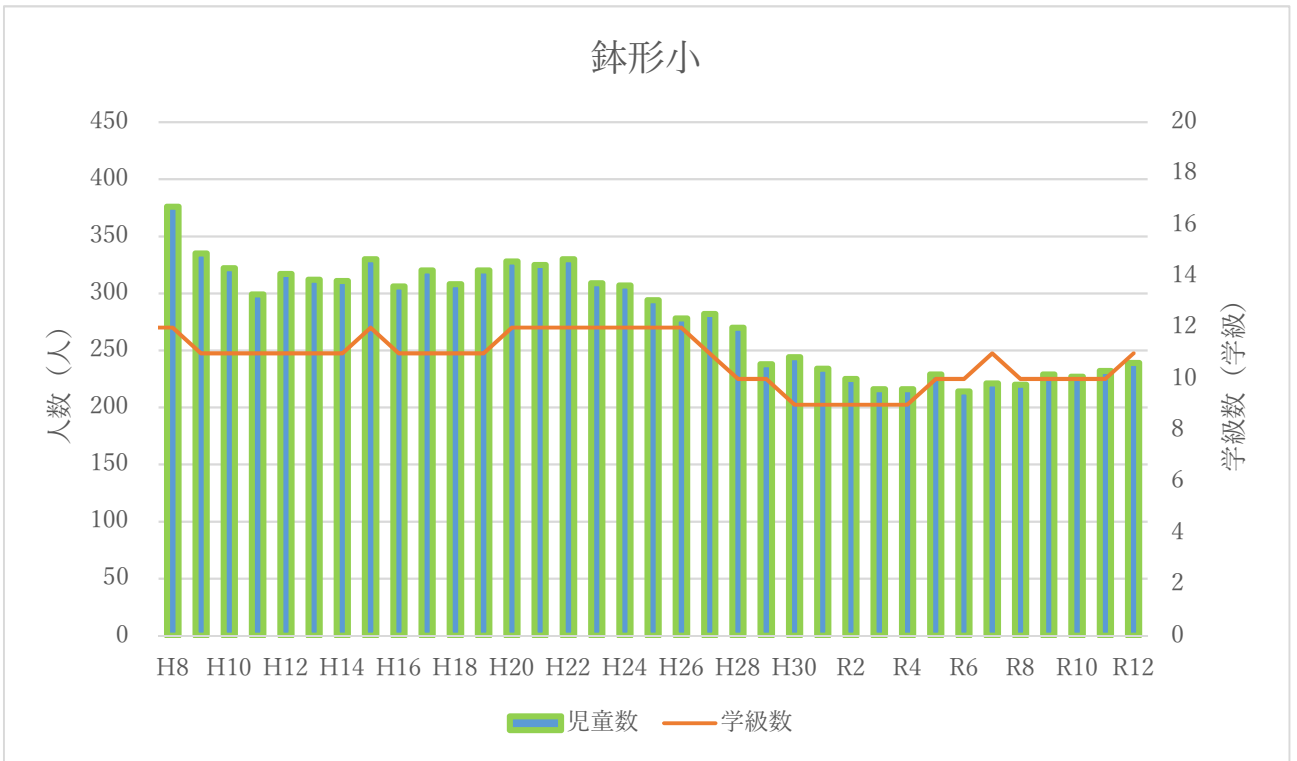
《旧鹿島町 8校》



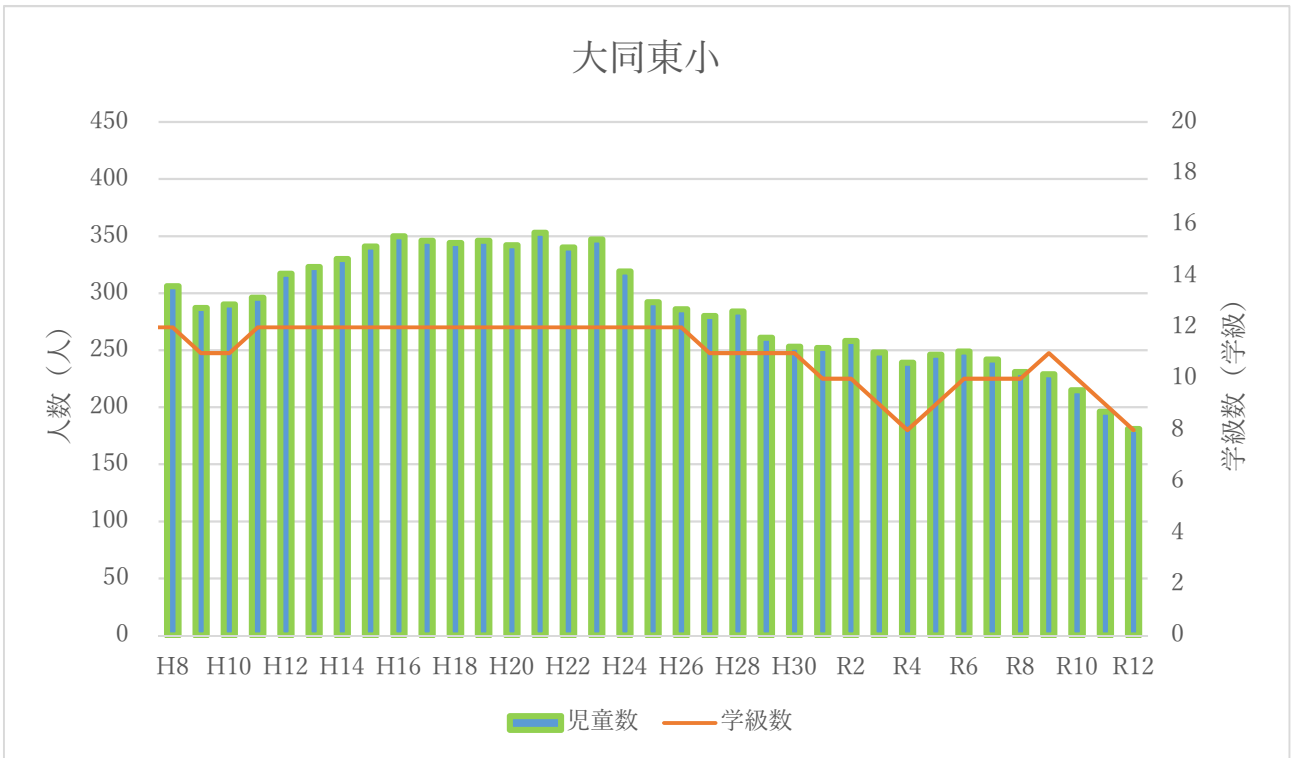


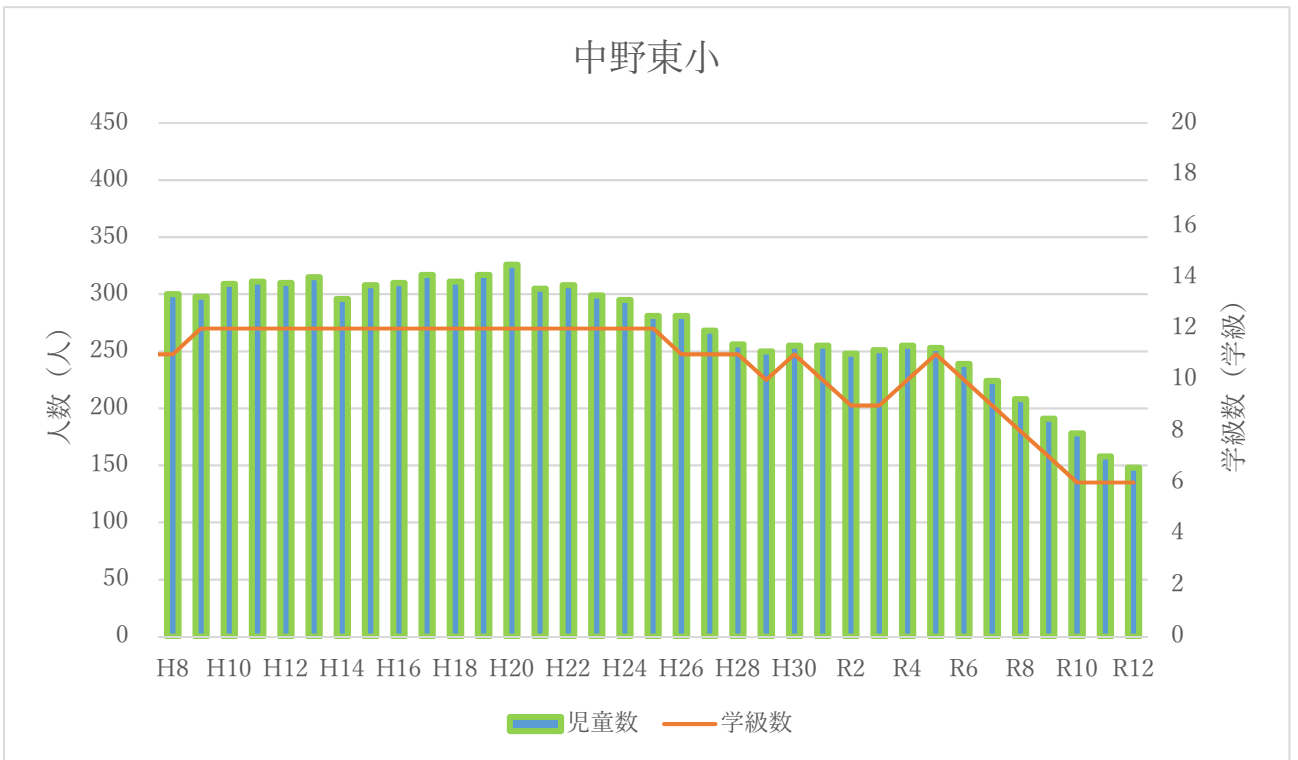
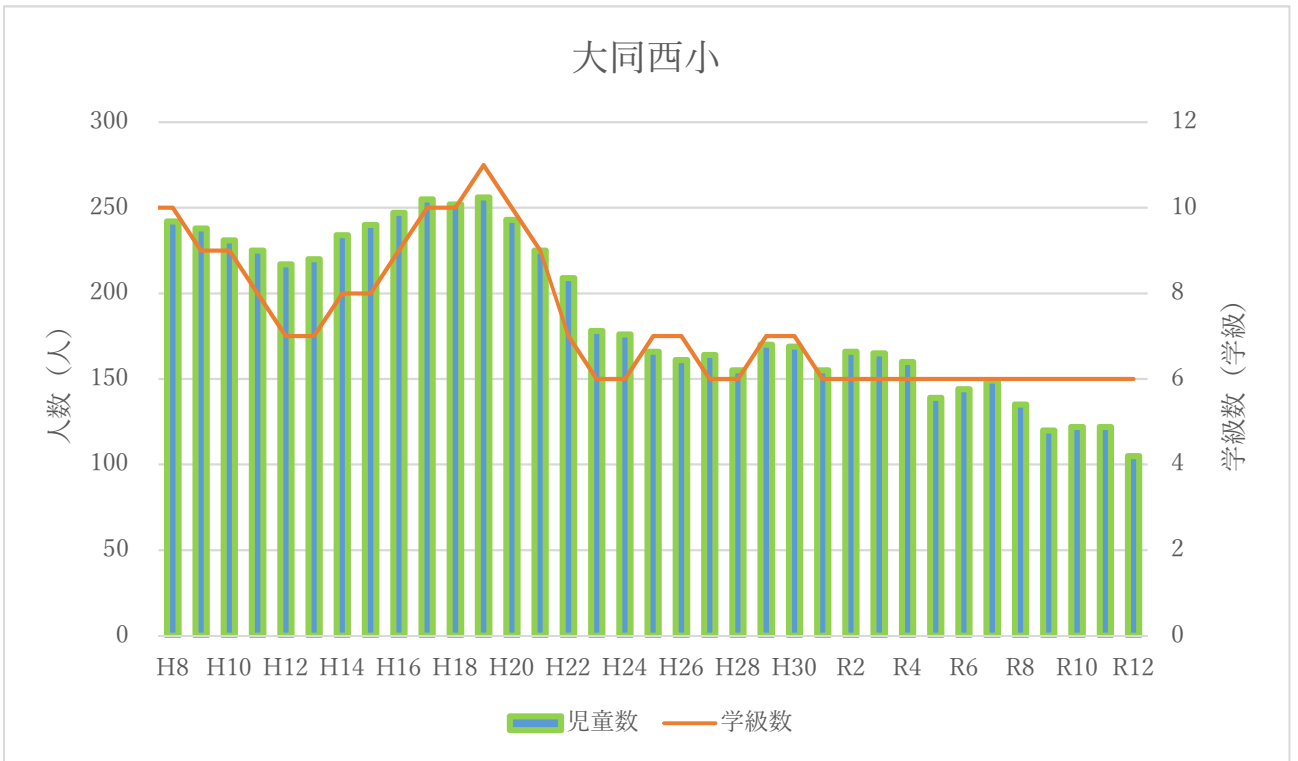


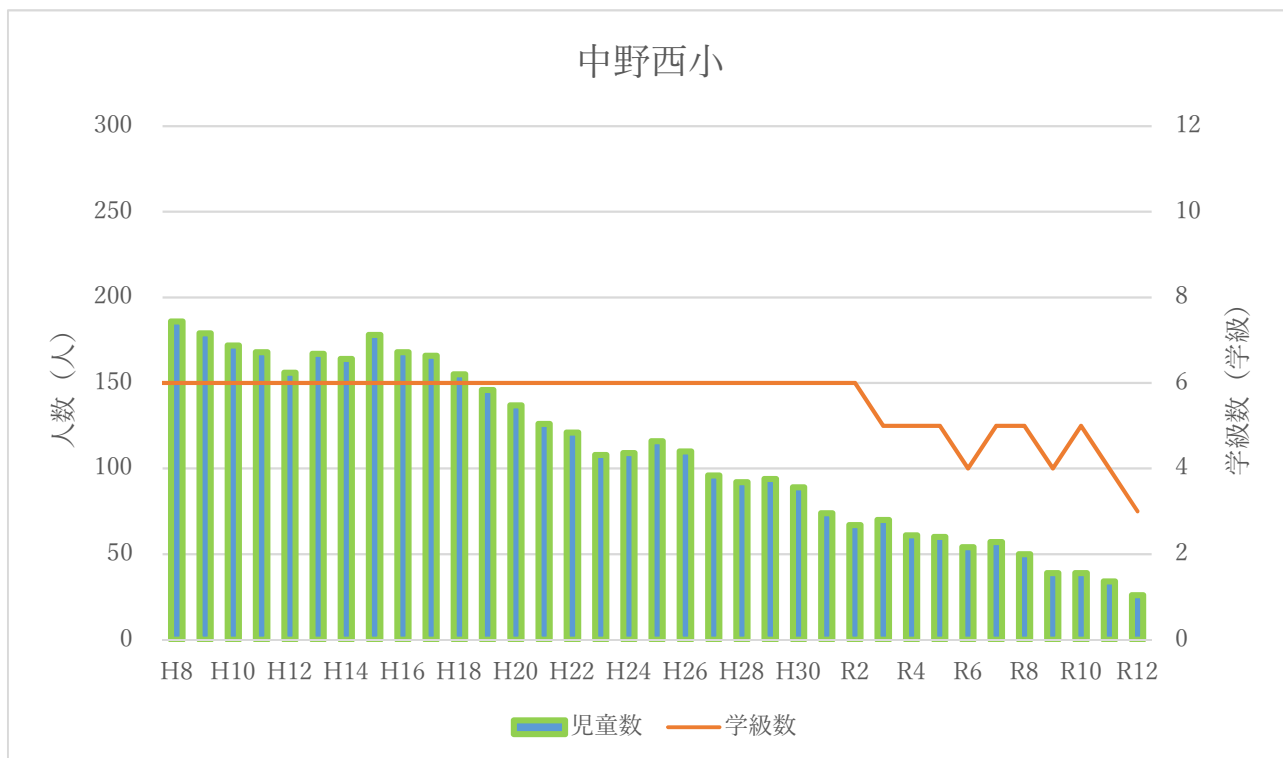




《旧大野村 4校》







(3) 中学校の状況

5つの鹿嶋市立中学校は、旧鹿嶋町の4中学校と旧大野村の1中学校が平成7年の町村合併以前の学校数で、現在も存続している。

旧鹿嶋町の4つの中学校は昭和29年旧鹿嶋町合併以前の町村ごとに中学校が開校（豊津村のみ組合立鹿島中学校に通学）したが、昭和42年の学校統廃合により、鹿島中学校と高松中学校の2校となった。その後、鹿島開発に伴う人口増加により昭和55年に鹿島中学校から分離した鹿野中学校が、昭和61年に高松中学校から分離し平井中学校がそれぞれ開校し、現在に至っている。

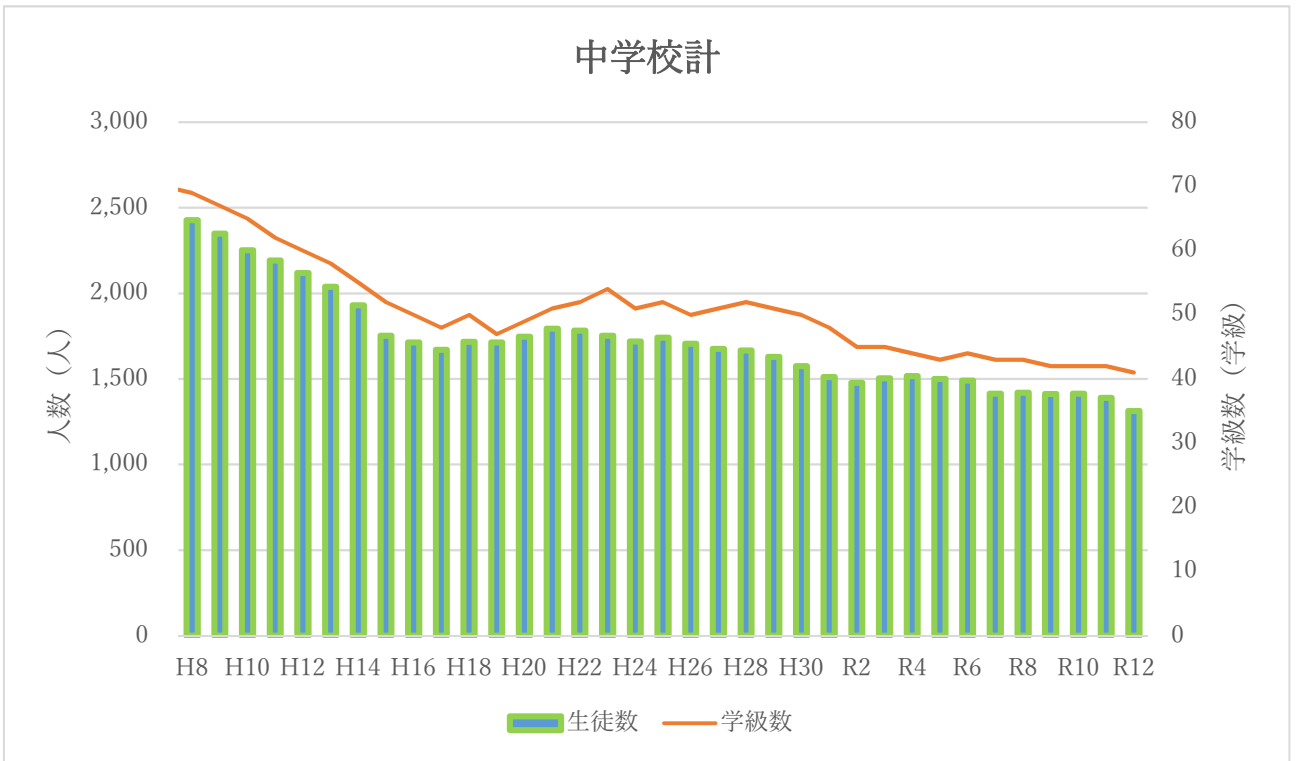
また、旧大野村立大野中学校は、昭和30年の大同村、中野村の合併を機に昭和32年に統合大野中学校が誕生した。

このような経緯から、鹿嶋市北部に位置する大野中学校の通学区域は、旧大野村全域として

広範囲に及んでいるため、生徒数は適正規模で推移している。一方、旧鹿島町に創立された4つの中学校のうち、鹿島中学校と鹿野中学校、平井中学校は市街化区域に学校があることから生徒数の減少幅も少ないが、高松中学校は、鹿島開発に伴い生徒数が急増した時期はあったものの、産業構造の変化を大きく受け、現在は単学級の小規模校となっている。このような状況もあったことから、高松中学校は、高松小学校に隣接しているという立地的な優位性を活かし、平成30年度から小中一貫教育をスタートし、さらに現在では高松小学校を中学校内に移設し、施設一体型小中一貫教育を推進している。

なお、鹿嶋市内には、いずれも中高一貫教育校である、県立中学校（県立鹿島高校附属中学校 1学年40人 中学生総数120人）と私立中学校（清真学園高等学校中学校 1学年4クラス 中学生総数460人から500人）の2つの中学校がある。銚田市にある県立中学校（県立銚田第一高等学校附属中学校）への進学者を含めると、市内小学6年生のうち約15%がこれらの学校に進学している。

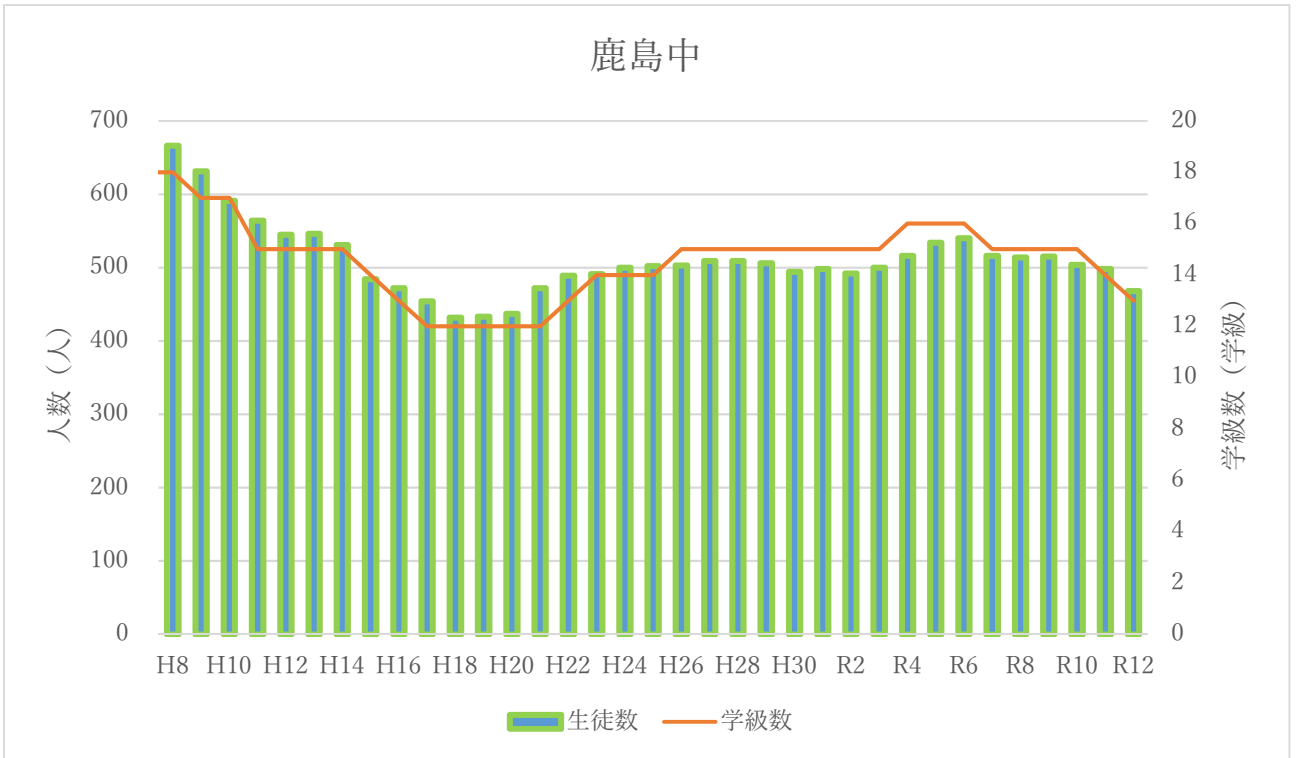
生徒数及び学級数は1996年（平成8年）の2,427人69学級をピークに減少を続け、2024年（令和6年）は1,491人（936人減）44学級（25学級減）となっている。生徒数も同様に減少を続け、2030年（令和12年）には1,313人41学級を見込む。小学校6年生の15%が県立、私立中学校等に進学することによる影響（約80人）も少ないが、少子化が主因と考える。

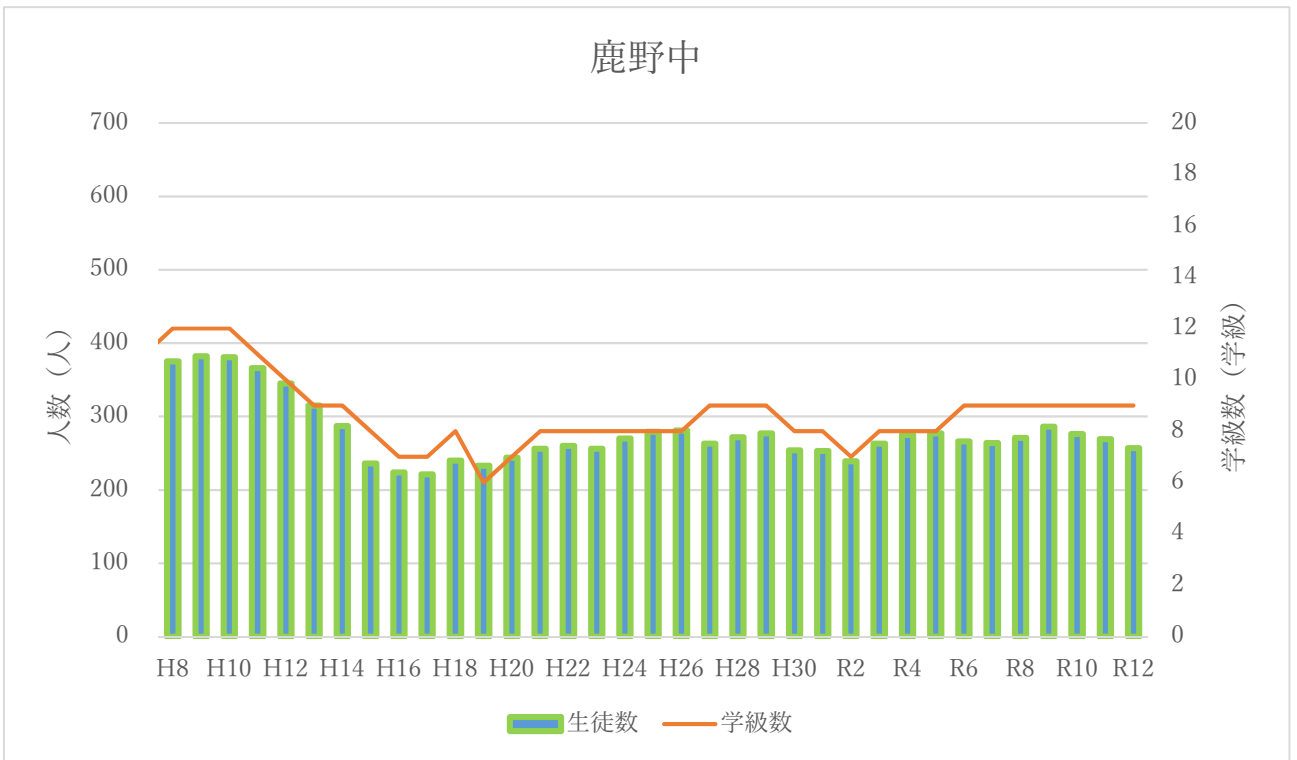
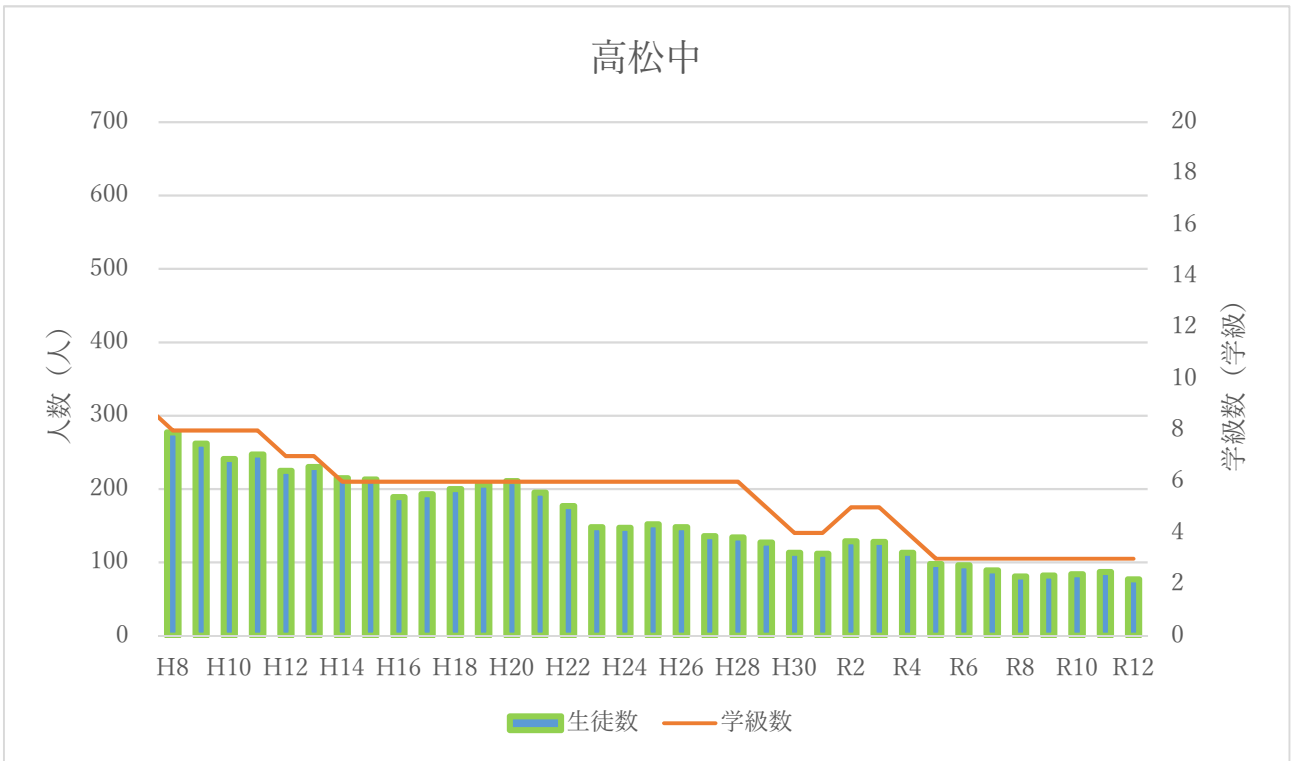


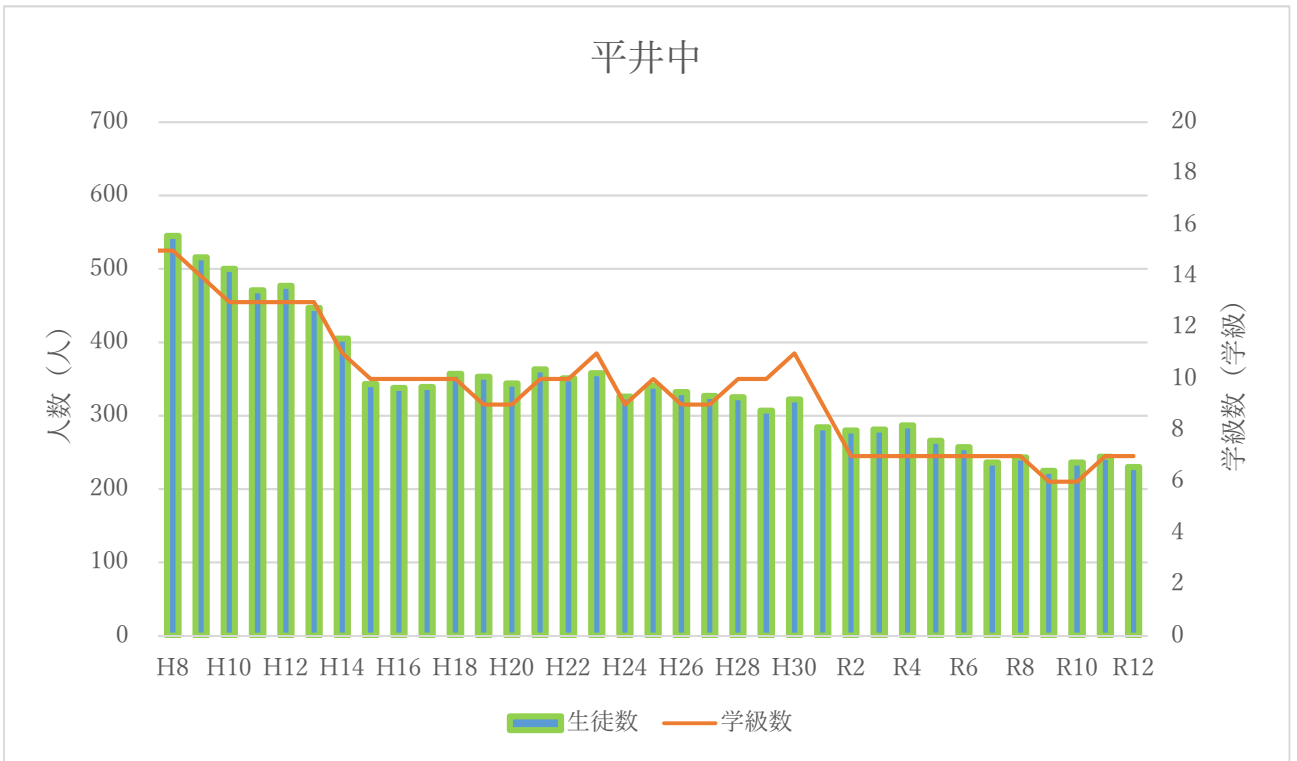
出典：学校基本調査（各年5月1日）及び、住民基本台帳の出生者数からの見込み値（以下同様）

【資料③ 児童生徒数、学級数の推移（中学校）】

《旧鹿島町 4校》







《旧大野村 1校》

